

トラクターの事故事例と対策 (1/2)

参考：農作業安全「リスクカルテ」

狭く急な坂道

- ✓ 通る坂道は、勾配が緩く、天候が悪くても、スリップすることなく安全に上下できる。

《事故事例》

狭い道、坂道、雨(重傷)
降雨後の狭い坂道を上る途中、スリップして転落しそうになったのでエンジンを止め、ロータリーに足をかけて崖側に退避しようとしたが、トラクターもろとも7m下に転落し、頸椎と肋骨を骨折。(平成24年5月17時頃、男性・79歳)



(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(No.IV)p36より

《なぜ》狭く急な坂道は、劣化によって路肩が崩れていたり、草が生い茂って路肩が見えなかったり、雨でスリップしやすくなります。

7

ほ場の進入・退出路

- ✓ ほ場の進入・退出路がしっかりしている。

《事故事例》

ほ場退出、狭い退出路(重症)

畑の耕うんを終えて狭い傾斜のある道を退出中、左側前輪が路肩を踏み外し、2.7m下の畑にトラクターごと転落。骨盤粉碎骨折、内腸臍動脈断裂、入院3カ月。(平成22年4月11時頃、男性・54歳)



退出路の道幅が狭く、①の地点で左前輪がわずかに浮き上がり、路肩をはみ出し、そのまま、②の地点にトラクターもろとも転落、下敷きとなる。その後、トラクターは横に転がる。単独作業であったので、発見は1時間後。

(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(No.II)p47より

《なぜ》狭い農地を有効に利用するため、ほ場の進入・退出路は狭く、傾斜もきつくなりがちです。また、草が繁茂すると路肩がわかりにくく、さらに危険な状態になります。

11

危険な路肩

- ✓ 車両に対して十分な道幅があり、路肩も視認(路肩ポール等を含む)できる。

《事故事例》

安全装置、狭い通路(死亡)
安全フレーム無し的小型乗用トラクターで畑の耕うんを終え、幅2.7mの通路に出て左旋回したところ、進行方向右側の路肩から2.9m(斜度60度)の崖下に転落転倒。トラクターの下敷きとなり、死亡。(平成26年6月19時頃、男性・85歳)



(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(No.IV)p92より

《なぜ》大型のトラクターが多くなり、以前にも増して狭い道路等の走行は危険です。フレーム等の安全装置の装着は必須です。

9

安全キャブ・フレーム無し

- ✓ 安全キャブやフレーム付きのトラクターを使用している。

《事故事例》

安全キャブ・フレーム無し、片手運転(重傷)

安全キャブ・フレームが付いていないトラクターで、3.3m幅の農道を片手運転で走行中、操作を誤り、左側の用水路(幅145cm、深さ158cm)に転落。骨盤骨折、右大腿部にヒビ、右手中指挫傷。(平成25年4月10時半頃、男性・57歳)



(一社)日本農村医学会編「こうして起こった農作業事故」(No.I)p53より

《なぜ》乗用トラクターは重心が高く、転倒しやすい機械です。大型化が進んでいるため、狭い農道や急な坂道での転倒の危険性は増しています。

15

トラクターの事故事例と対策 (2/2)

参考：農作業安全「リスクカルテ」

公道での後方からの追突

- ✓ トラクターの作業機に邪魔されない位置や、作業機に反射板が付いている。(低速車マーク)

《事故事例》

公道、日没後、交通量(死亡)
肥料散布機で施肥作業終了後、
国道を走行中、後方から乗用
車に追突され、はじき飛ばされ
側溝に転倒し、下敷きとなり死
亡。
(平成26年4月 18時50分頃、日
没30分後、男性・70歳)



(一社)日本農村医学会編「こうして起
こった農作業事故」(No.IV)p93より

《なぜ》日没後や日の出前は、道路走行時の視認性が悪くなり、
低速で走っているトラクターに自動車の運転手が気付くのが遅れ、
事故につながる可能性が高くなります。

17

危険箇所(カーブ等)

- ✓ カーブでの減速、一旦停止をしている。
- ✓ 移動道路やほ場の危険性を確認している。

《事故事例》

鋭角カーブ、危険性認知
(死亡)

水田の荒耕しの帰り、走行中
農道から約1.2m下のほ場へ
転落。発見は約2時間後、心
肺停止状態、その後死亡確認。
(平成25年3月 12時頃、男性・
74歳)



荒耕しを終わり、黄色線標を運んできた。土手の上る部分は、
鋭角カーブ。また、事故当時、草が生えていて、道の境界が不明
で、道を踏み外し転落。下敷きとなる。事故現場は、通行人が入ら
ないところで、事故から約2時間後、心肺停止状態で発見された。

(一社)日本農村医学会編「こうして起
こった農作業事故」(No.III)p91より

《なぜ》一般道は、鋭角カーブを極力なくし、また危険と思われる
場所には注意警告や一時停止の標識が設置されていますが、農
道や私道では、そのような配慮はされていません。

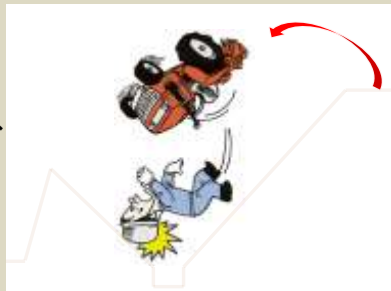
23

ブレーキの連結忘れ

- ✓ 作業終了後、ほ場を出る前にブレーキ連結を確認している。

《事故事例》

ブレーキの連結ロック、
安全フレーム(死亡)
安全フレーム無しのトラクターで、
公道で後続車両に気づき停止
しようとしたが、ブレーキの連結
ロックをし忘れていたため片ブ
レーキとなり、左側の排水路に
転落し、トラクターの下敷きとな
り死亡。(平成26年4月 11時頃、
男性・87歳)



(一社)日本農村医学会編「こうして起
こった農作業事故」(No.IV)p95より

《なぜ》道路などを走行中に片ブレーキを踏み、重大な事故とな
るケースが後を絶ちません。特に、ほ場内作業で片ブレーキを使
い、ほ場退出時に連結ロックを忘れることも多いようです。

21

まとめと対策

事項	チェック内容	チェック	対策優先
坂道	通る坂道は、勾配が緩く、天候が悪くても、スリップすることなく安全に上下できる。		
道路幅・路肩	車両に対して十分な道幅があり、路肩も視認(路肩ポール等を含む)できる。		
進入・退出路	ほ場の進入・退出路がしっかりしている。		
安全キャブ・フレーム	安全キャブもしくはフレーム付きのトラクターを使用。		
公道走行	交通量の少ない一般道・農道を選んで通行する。 トラクターの作業機に邪魔されない位置や、作業機に反射板が付いている。		
ブレーキ連結	作業終了後は、ほ場を出る前にブレーキを連結。(あるいは、片ブレーキ防止装置がついたトラクターを使用する。)		
危険箇所	カーブでの減速、一旦停止をしている。 事前の下見や、最新のハザードマップで、移動道路やほ場の危険性を確認している。		